

第3章 調査の結果

第1節 全回答者

100人から回答を得た。ここから、スクリーンリーダをまったく利用していない回答者1人を除いた99人を有効回答者とした。99人のうち、職場のパソコン環境についての回答者数は68人、自宅のパソコン環境についての回答者数は76人、両方への回答者数45人であった。

回答者の内訳は図3-1-1から図3-1-4の通りである。年齢は、40代を中心とした紡錘型の分布となっている(図3-1-1)。最も多い40代は29人、これに30代の24人と50代の22人が続く。20代と60代は10人、10代と70代は2人、平均年齢は44.2歳であった。

障害等級は1級(82人)と2級(13人)の回答者でほとんどを占めた(図3-1-2)。これは、スクリーンリーダの利用者を対象者としたためである。ほかに、3級と5級の回答者が1人ずつ、身体障害者手帳をもたない回答者も2人いた。

日常の使用文字は、点字のみが63人、点字と墨字両方が15人、墨字のみが19人、不明2人で、点字使用者は合計78人となった(図3-1-3)。なお、墨字とは、印刷あるいは書かれた一般の文字のことで、点字と区別してこのように表現する。

コンピュータ利用歴の分布を図3-1-4に示す。仮に2年未満を初心者とすると、その数は9人であり、回答者の約10%にとどまる。2年以上だと90人、10年以上でも49人となり、利用歴の長い回答者がほとんどを占めた。平均利用歴は10.0年であった。

回答率について付記しておく。調査に利用したメーリングリスト参加者のうち視覚障害者の人数は、前章第2節の推定ではそれぞれ、317人、250人、33人、240~280人であった。これらを合算すると840~880人となるので、メーリングリストに参加している視覚障害者中の回答率は $100 / 840 \sim 880 = 11.4 \sim 11.9$ [%]となる。しかし、複数のメーリングリストに重複して登録している人がいると、上の計算式の分母の値が小さくなるので、回答率は11.4%より高いと推測できる。

全回答者のプロフィール

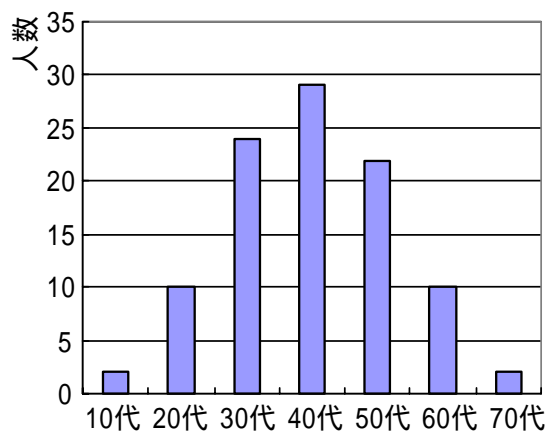


図 3-1-1 年齢 (n=99)

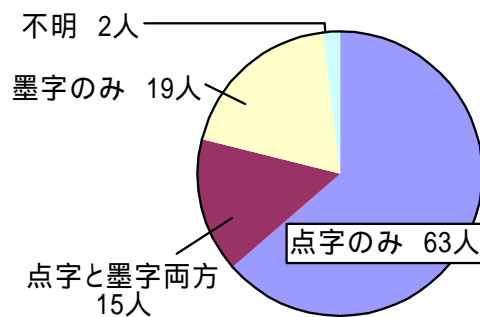


図 3-1-3 使用文字種 (n=99)

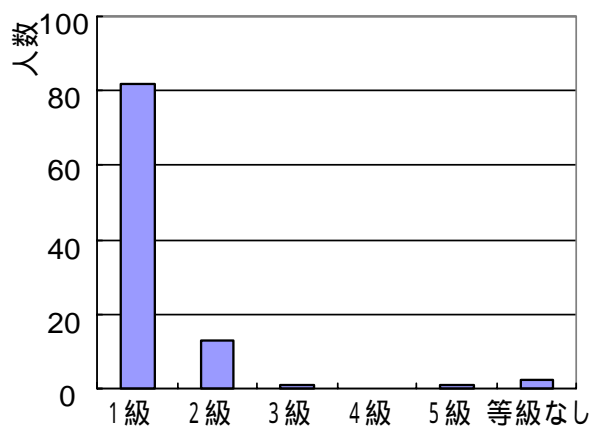


図 3-1-2 障害等級 (n=99)

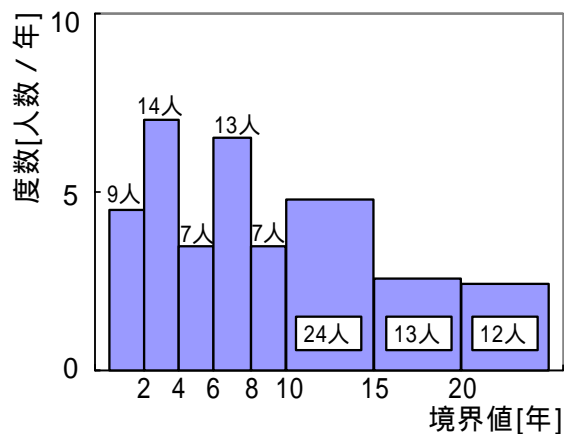


図 3-1-4 パソコン利用年数 (n=99)